

令和 5 年度 政務活動費支出整理簿

会派名 無所属

氏 名 前田 由美

項 目	調査研究費		
費 目	旅費		
整理番号	月 日	支出額 (円)	支 出 内 容
1	1 / 9	83,353	調査視察 旅費・宿泊費（沖縄県名護市、国頭郡本部町）（日程、視察先等は調査視察等届出書等に記載）
1-1	/	0	航空券 三沢⇄羽田⇄那覇 52,120円 那覇市宿泊代 19,400円 貸切バス代11,563円 モノレール代 270円
1-2	/	2,180	水族館入館料
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
小 計		85,533	備 考
合 計		85,533	

※案分による支出の場合は、案分率等を支出内容欄に記入してください。

令和5年11月28日

会派名 無所属

代表者名 前田由美様

氏 名 前 田 由 美



調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 前 田 由 美 議員
- 2 期 間 令和6年1月9日(火)～令和6年1月11日(木)
- 3 場 所 沖縄県名護市、沖縄県国頭郡本部町
- 4 目的及び内容
 - ・ J A M S T E C 国際海洋環境情報センター
(G O D A C) について (座学、施設見学等)
 - ・ 沖縄美ら島財団総合研究センター、
沖縄美ら海水族館について (施設見学等)
- 5 支出可能額 (上限額) 92,223円
【内訳は、旅費額計算書 (第4号様式) に記載のとおり】

第4号様式 (第6条、第8条関係)

旅 費 額 計 算 書

旅 行 日 程			旅 費 計 算 の 基 礎				
行	1/9	本八戸駅前発 7:40	区 分	基 数	単 価	金 額	備 考
き	1/9	旭橋駅着 15:35	早見表				
帰	1/11	旭橋駅発 9:57					
り	1/11	本八戸駅前着 17:25					
経路・滞在地 別紙のとおり			鉄道運賃				
			急行料金	特			
				急			
			特別車両料金				
			航空運賃		1	52,120	52,120 三沢⇄羽田⇄那覇 (往復)
			連絡バス		2	1,500	3,000 本八戸駅前⇄三沢空港
			ゆいレール		2	270	540 那覇空港⇄旭橋
			貸切バス ※		1	11,563	11,563 宿泊ホテル⇄視察先
			宿泊料	2	12,500	25,000	1/9, 1/10 那覇市内泊
			小 計			92,223	
			合 計 (小計×人数)			92,223	1名

※ 総額を本視察に参加した人数で案分して計上。

127,200 円 (総額) ÷ 11 名 (参加人数) = 11,563.63... ≒ 11,563 円 (1 円未満切捨)

国立研究開発法人海洋研究開発機構研究成果活用促進八戸市議会議員連盟 視察行程

・日 程：令和6年1月9日（火）～11日（木）

・場 所：沖縄県名護市・国頭郡本部町

【前田議員】

月 日	行 程	宿泊地
1月9日 (火)	7:40発 本八戸駅前 → (連絡バス) → 8:35着/9:35発 三沢空港 → (JAL152) → 11:00着/11:55発 羽田空港 → (JAL915) 14:50着/15:25発 那覇空港 → (ゆいレール) → 15:35着 旭橋	
1月10日 (水)	8:00発 ホテル → (貸切バス) → 那覇IC → 宜野座IC → 9:30着/11:00発 GODAC → (貸切バス) (沖縄自動車道) (視察) 13:00着/15:00発 → 美ら海水族館 → (貸切バス) → 許田IC → (貸切バス) → 那覇IC → 17:30着 (13:30～バックヤード視察) (沖縄自動車道) ホテル ・国際海洋環境情報センター (GODAC) 9:30～11:00 ・美ら海水族館バックヤード視察等 13:00～15:00	那覇市内泊
1月11日 (木)	9:57発 旭橋 → (ゆいレール) → 10:09着/11:15発 那覇空港 → (JAL904) → 13:25着/15:00発 羽田空港 → (JAL157) → 16:20着/16:35発 三沢空港 → (連絡バス) → 17:25着 本八戸駅前	

令和6年1月18日

会派名 無所属

代表者名 前田由美様

氏名 前田由美



調査視察等報告書

令和5年11月28日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告します。

- | | |
|-------|--|
| 1 旅行者 | 前田由美議員 |
| 2 期間 | 令和6年1月9日（火）～令和6年1月11日（木） |
| 3 場所 | 沖縄県名護市、沖縄県国頭郡本部町 |
| 4 行程 | 別紙のとおり |
| 5 支出額 | 83,353円（航空券代、宿泊代、貸切バス代）
2,180円（水族館入館料 ※比較対象外） |
| 6 概要 | 別紙のとおり |

国立研究開発法人海洋研究開発機構研究成果活用促進八戸市議会議員連盟 視察行程

・日 程：令和6年1月9日（火）～11日（木）

・場 所：沖縄県名護市・国頭郡本部町

【前田議員】

月 日	行 程	宿泊地
1月9日 (火)	7:40発 本八戸駅前 → (連絡バス) → 8:35着/9:35発 三沢空港 → (JAL152) → 11:00着/11:55発 羽田空港 → (JAL915) 14:50着/15:55発 → 那覇空港 → (ゆいレール) → 16:05着 旭橋	那覇市内泊
1月10日 (水)	8:00発 ホテル → (貸切バス) → 那覇IC → 宜野座IC → 9:30着/11:00発 GODAC → (貸切バス) (沖縄自動車道) (視察) 12:00着/15:00発 → 美ら海水族館 → (貸切バス) → 許田IC → (貸切バス) → 那覇IC → 17:30着 (13:30～バックヤード視察) (沖縄自動車道) ホテル ・国際海洋環境情報センター (GODAC) 9:30～11:00 ・美ら海水族館バックヤード視察等 13:00～15:00	
1月11日 (木)	8:48発 旭橋 → (ゆいレール) → 9:00着/11:15発 那覇空港 → (JAL904) → 13:25着/15:00発 羽田空港 → (JAL157) → 16:20着/16:35発 三沢空港 → (連絡バス) → 17:25着 本八戸駅前	

領収書等貼付用紙

項目	調査研究費	費目	旅費	整理番号	1-1
領収書等貼付欄					

領 収 証

No. 122678
2024年1月18日

前田 由美 様

金 額	¥	83083
-----	---	-------

但し航空券代52120円宿泊費19400円食料代11563円
10%対象(税込) 83083 0%対象
内 消費税 7553 円 上記の金額正に領収致しました。

現金	✓
小切手	
振込	
クレジット	

**北海道トラベル**
登録番号 T1420001005756
〒031-0041 青森県八戸市二十三日町4-1 NDEビル1F
TEL (0178) 22-5151代



発行者印

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

領収書等貼付用紙

項目	調査研究費	費目	旅費	整理番号	1-1
領収書等貼付欄					

領収証 前田由美

ご利用日付 2024年1月11日 時刻 08時38分

券番号: 7426

取引内容: 乗車券類購入 金 270円

伝票番号: 36834 沖縄都市モノレール株式会社

ご利用ありがとうございます。 旭橋 02券発行

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

領収書等貼付用紙

項目	調査研究費	費目	旅費	整理番号	1-2												
領収書等貼付欄																	
領収書 前田 様 2024年01月10日 ご利用時刻 12:38 取引内容 入場券購入 購入金額 ¥2,180 10%対象 ¥2,180 内消費税額 ¥198 購入区分 現金 領収書番号 0001025 上記金額正に領収致しました。 <table><tr><td colspan="3">ご購入明細</td></tr><tr><td>品名</td><td>枚数</td><td>金額</td></tr><tr><td>大人</td><td>1</td><td>2180</td></tr><tr><td colspan="2">合計</td><td>2180</td></tr></table> 一般財団法人 沖縄美ら島財団 登録番号: T8360005003327 沖縄県国頭郡本部町字石川888番地 02号機発行						ご購入明細			品名	枚数	金額	大人	1	2180	合計		2180
ご購入明細																	
品名	枚数	金額															
大人	1	2180															
合計		2180															

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

視察報告書

視察日 令和6年1月10日(水) 午前9時30分～11時

視察地 沖縄県 名護市

視察目的 JAMSTEC 国際海洋環境情報センター (GODAC) について

視察議員 前田由美

1、視察目的

現在、八戸市教育委員会は国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）の「海洋 STEAM 事業」に協力している。その中では八戸市立吹上小学校を協力校として、小学校向けの「海洋 STEAM 教材」の開発を進めている。本教材の開発は全国に先駆けての取組であり、次に続く教材の開発も進めていると伺っている。今回は、教育委員会の職員、吹上小学校の先生とともに、八戸市における今後のさらなる STEAM 教育の発展、「海洋 STEAM 教材」の開発に資することができるよう JAMSTEC 国際海洋環境情報センターの取組を視察するものである。

2、視察対応

国立研究開発法人 海洋研究開発機構
付加価値情報創生部門
国際海洋環境情報センター（GODAC）
センター長 園田 朗

国立研究開発法人 海洋研究開発機構
付加価値情報創生部門
国際海洋環境情報センター（GODAC）
管理課

事務主任 比嘉 直人

3、視察内容

① JAMSTEC 研究・開発部門の取組

- ・当センターは付加価値情報創生部門に属する。膨大なデータを最適に処理する手法を開発し、付加価値のある情報を創生する。
- ・様々な分野での予測をするための計算式を開発し、シミュレーションして情報を公的機関や企業へ情報提供する。

② 国際海洋環境情報センター（GODAC）

- ・2001 年 11 月に開所する。沖縄北部特別振興対策事業により名護市が施設と設備を整備し、JAMSTEC が借用し運用している。データ基盤技術開発グループと管理課の 2 グループに分かれる。

③ 名護市との協定

- ・1、調査、データ収集 2、データベース化、データ画像処理の研究開発 3、情報発信、教育、人材育成 4、海洋科学技術、市の施策の振興推進

④ GODAC の役割

- ・海洋、地球のデータ蓄積と発信による社会貢献と情報の創生に向けたデータ連携の促進
- ・海洋科学技術の理解増進活動の展開
- ・NHK の海洋番組作成の際のデータアーカイブ処理作業
- ・AI 技術の開発、データ提供・連携基盤の開発

⑤ 海洋生物多様性データの提供による国際貢献

- ・2017 年、OBIS 運営会議が GODAC で開催される。北西太平洋海域の主要な情報ソースとなっている。

⑥ 深海映像画像アーカイブ

- ・映像画像は DiG 横浜で保管され、DiG 名護へ転送される。約 41,000 時間の映像と約 175 万枚の画像を配信する。

⑦ 深海調査記録映像・画像データの活用事例

・20 年前から「ゴミ」としてタグ付けして保存し、プラスチックゴミ問題に活かされている。「深海デブリデータベース」として公開、運用している。

⑧ 来館者数の推移

- ・2014 年度から 2018 年度の年平均来館者数は約 20,000 人、2023 年度（8 月末現在）は約 3,500 人。
- ・県外からの来館者が増えてきている。

⑨ 地域における学術振興・海洋人材の育成

- ・むつ市、横須賀市、名護市の 3 小学校において、オンラインでの交流学习を実施
- ・ALL やんばるまなびのまちプロジェクトへの参画
- ・キッズドクター育成プロジェクト（2020～2022 年度）
- ・オンラインプログラムを効果的に使えるようにしていく。

⑩ GODAC の教育プログラム

- ・5 つのテーマのメインプログラムを用意している。事前事後の副教材も用意している。各学校の要望に応えられるように、時間や内容にも対応する。新しいプログラム開発も行っている。

⑪ コロナ禍における事業展開

- ・オンライン対応が増えてきている。全国へと拡大してきている。

⑫ オンライン授業の全国展開について

- ・県内 42 件、県外 41 件とオンライン講座対応の実績がある。

⑬ オンラインイベント等の対応について

- ・ザ・テラスホテルズ株式会社主催での観光分野や SMBC コンシューマーファイナンス株式会社主催での金融分野と結び付けてのイベントも実施している。

⑭ ポストコロナ禍での新たな事業展開の事例

- ・GODAC 制作動画コンテンツ等の提供開始
- ・修学旅行の事前事後のリモート学習対応実施
- ・異業種との連携による新たな展開

⑮ ALL やんばるまなびのまちプロジェクト概要

- ・県や市、各種団体と連携しながらイベント、出前事業、修学旅行等に対応していく。

⑯ 地域における観光振興

- ・修学旅行を受け入れ、プログラムやコンテンツを提供し学びの場を作る。

⑰ 今後の課題

- ・市民参加型となるように研究者と市民がつながる仕組みづくりをしていく。
- ・アクティブラーニングに沿ったプログラム開発や STEAM 型のプログラム開発をしていく。
- ・オンラインプログラムの開発と情報の提供
- ・施設や設備の機能強化

4. 質問

質：施設は定期的にリニューアルしているのか？

答：少しずつ変えている。

質：オンライン授業は、小学生対象が多いのか？

答：多いが、中学、高校生にも対応している。レベル別に用意している。

質：年間のイベント数は？

答：出前を入れると 100 件を超える。

質：ユニークなイベントの発想はどこから生まれるのか？

答：職員みんなでアイデアを出し合っている。

質：教育プログラムは改訂をしているのか？

答：常にアップデートをしている。

5、施設見学

・机上での説明を聞いた後、施設内を見学した。

6、所感

今回初めて国際海洋環境情報センター、通称 GODAC に視察に伺いました。近年子供を今後の IT 社会に順応した競争力のある人材に育てていくという教育方針いわゆる STEAM がこれからの教育の柱となっていくと言われております。

八戸市でも現在先行して小学生に行っている国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）の海洋 STEAM 事業があります。

幸いなことに八戸市は海が近くにあり、環境的には恵まれていますので、GODAC のような立派な施設がなくても、その中の教育プログラムにある「海洋ごみ問題、海の生物多様性等 SDGS に関するプログラム」をさらに掘り下げることによって、子どもたちの好奇心や探求心を育み学習意欲の向上に寄与するのではないかと考えます。

そしてさらに、オンライン授業も行っているとのことなのでぜひ多くの八戸の小学校でも授業を行い、修学旅行等で GODAC に行きたいなどの意欲を高められればいいのではないかと考えます。

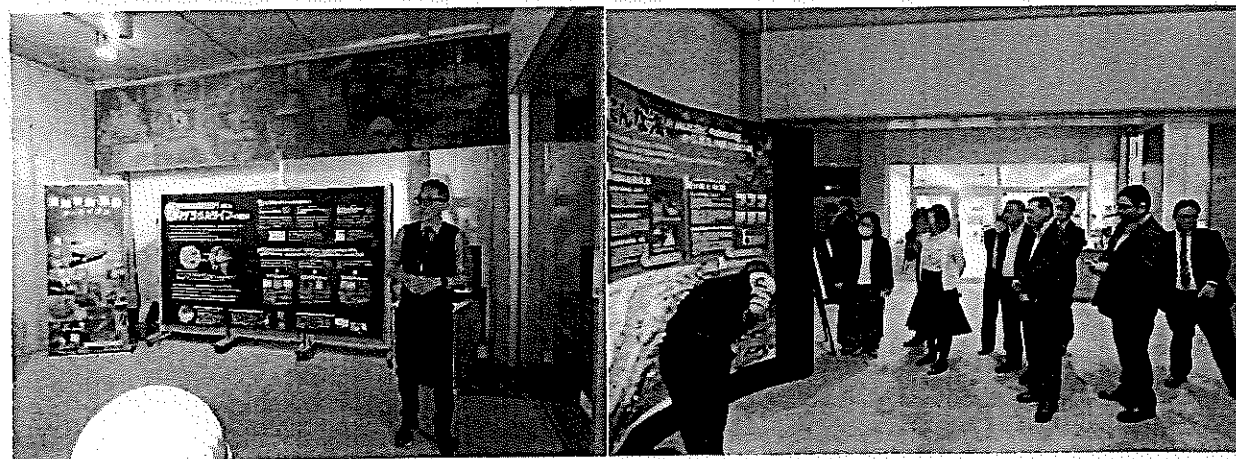
JAMSTEC が世界中の海で発見した「海と地球のふしぎ」をこの GODAC でますます世界に発信していただき多くの子どもたちの未来に寄与するよう今後も注目していきたいと思います。

7、写真



▲説明を聞く議員団

▲説明を聞く議員団



▲施設内での比嘉さんからの説明

▲施設内で説明を聞く議員団



▲施設内で資料を見る議員団



▲しんかい 6500 の資料展示ブース



▲説明を聞く議員団

▲オンライン授業の機材



▲施設前での集合写真

8、名刺



国立研究開発法人 海洋研究開発機構
付加価値情報創生部門
国際海洋環境情報センター(GODAC)

センター長 園 田 朗

国際海洋環境情報センター
〒905-2172 沖縄県名護市宇宜原224-3
電話 (0980) 50-0115番(直通)
FAX (0980) 50-0123番
E-mail: akirae@jamstec.go.jp
URL: <https://www.jamstec.go.jp/j/>

この名刺は再生紙を使用しています。



国立研究開発法人 海洋研究開発機構
付加価値情報創生部門
国際海洋環境情報センター (GODAC)
管理課

事務主任 比 嘉 直 人

国際海洋環境情報センター(GODAC)
〒905-2172 沖縄県名護市宇宜原224-3
電話 (0980) 50-0113 (直通)
FAX (0980) 50-0123
E-mail: higan@jamstec.go.jp
URL: <https://www.jamstec.go.jp/j/>

この名刺は再生紙を使用しています。

視察報告書

視察日 令和6年1月10日(水) 午後1時～3時

視察地 沖縄県 国頭郡本部町

視察目的 美ら海水族館バックヤード等

視察議員 前田由美

1、視察目的

今回は美ら海水族館のバックヤード等を視察させていただき、この巨大な水族館がどのように管理運営され、また多様な生き物たちがどのように飼育されているのかを調査するものである。多くのお客様が年間訪れインバウンドも全体の約3割と人気のスポットとなっている。その人気の秘密も探りながら八戸市の水産科学館マリエンツにも活かしていきたい。

2、視察対応

一般財団法人 沖縄美ら島財団

水族館管理センター

水族館統括 佐藤圭一

3、視察内容

バックヤード等の視察は、それぞれの議員が佐藤氏に質問をしながら進められた。

質：ジンベエザメの年齢は？

答：35歳から40歳。まだまだ若い。130年ぐらい生きると言われている。サメは過去に500年も生きたものが見つかっている。野生ではここにいる大きさぐらいのものは見られない。野生では小さいうちに食べられるなどして死んでしまう。

質：ジンベエザメは近海で捕獲したのか？

答：そうである。マンタはここで生まれたものもある。

質：水槽の水温は何度か？

答：冬場は22度位である。

質：水槽の容量は？

答：7500 m³である。

質：ジンベエザメのえさは？

答：オキアミを与えている。宮城県、福島県から仕入れている。一日に4回に分けて計30kgから40kg食べる。サメは体の大きさの割にはえさを食べない。くじらはサメの10倍位食べる。

質：海藻は食べないのか？

答：食べないが、ウミガメは食べる。

質：年間のえさ代は？

答：8000万円。もっとかかるのは電気代で数億円かかっている。さらに人件費もかかる。

質：ジンベエザメはどうやって運んできたか？

答：トレーラーで運び、館内のクレーンで中に搬入した。

質：ジンベエザメのサイズは？

答：長さ9m、重さ6.5t

質：ジンベエザメのいる水族館は全国にいくつあるのか？

答：4か所ある。

質：被災した能登の水族館とのやり取りは？

答：ウミガメの引き取りについてやり取りを現在している。

質：停電対策は？

答：非常用発電機がまわり、全館を賄う。

質：ジンベエザメの性別は？

答：オスである。

質：繁殖させているのか？

答：メスが見つかるか、あるいはメスが生まれたら育てて別の場所で繁殖させたい。

質：繁殖期はあるのか？

答：ジンベエザメは年2回、マンタは1回である。

質：マンタは卵生か？

答：胎生であり、現在妊娠をしている。おなかの中で1年間ミルクを飲み続け生まれてくる。50 kgから60 kgで生まれてくる。

* タツノオトシゴも飼育されていた。ワシントン条約で規制されている。この水族館で増やして他の水族館へ配布している。

* イソギンチャクも乱獲されているため養殖をしている。

質：水槽の水温調整も行っているのか？

答：行っている。夏の暑い時などは、30℃を超えるとジンベエザメはえさを食べなくなる。1時間に200t取水し、1日に4回入れ替えている。

質：休館日はあるのか？

答：年中無休である。夜間に点検をしている。

質：海外からの視察は来ているのか？

答：各国から来ている。

* 観覧者の水槽のちょうど裏側にまわって視察をした。

質：修繕費はどれくらいかかっているのか？

答：年間8,000万円。20年経過しているため、配管や鉄の部分が錆びてきている。

質：経営手法は？

答：独立採算制である。指定管理料はもらっていない。入場料と営業収入で賄っている。コロナ禍の際は経営が大変であった。

質：施設の所有者は？

答：施設は国のもの。県が管理している。年間8億5,000万円の修繕費をもらって管理している。

* この後、それぞれバックヤードの視察を終え正規の観覧ルートを回り視察した。

4、所感

私は過去に一度美ら海水族館を観光したことがありますが、今回初めてバックヤードに入りこの水族館の内情を拝見させていただきました。どの水族館も同じなのかもしれませんが、生き物の生態がわからないと飼育できません。

その点この施設は、ジンベエザメのような大型で特殊な生物を飼育できる水槽などの設備、そしてそれを管理し飼育する方法を確立させて多くの来場者を受け入れることができ人気の施設となっております。

夏は特に水温上昇しないように温度管理に気をつけなくてはなりませんが、電気代や餌代の高騰に加え人件費も高くなってきているので、施設運営は大変かと思われますが、入場料とグッズ・飲食等の営業収入で賄っていることに驚かされました。

八戸にはマリエントがありますが、規模が違うので単純に比較できませんが、今回の視察を踏まえマリエントがさらに魅力ある水族館になるよう管理者と一緒に盛り上げていきたいと思います。

5、写真



▲水族館入口のジンベエザメ像



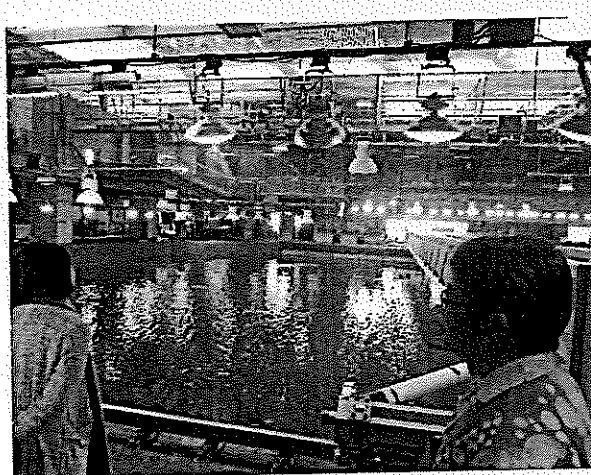
▲入館口前で説明を受ける議員団



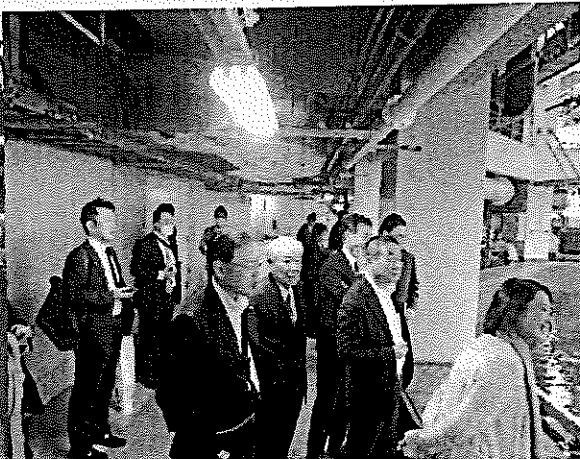
▲館内の展示資料



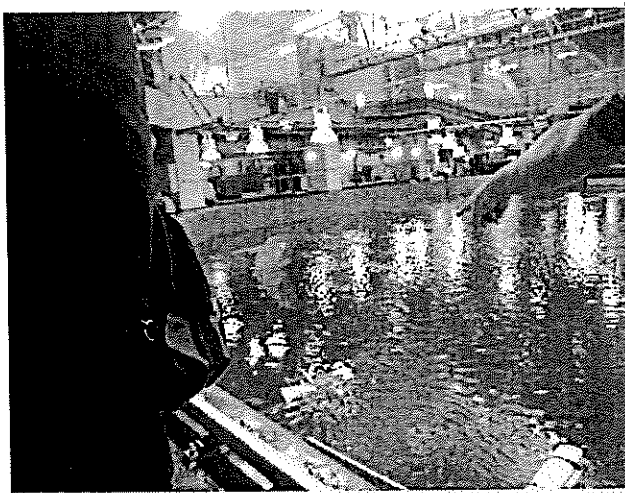
▲資料の説明を受ける議員団



▲大水槽のバックヤード



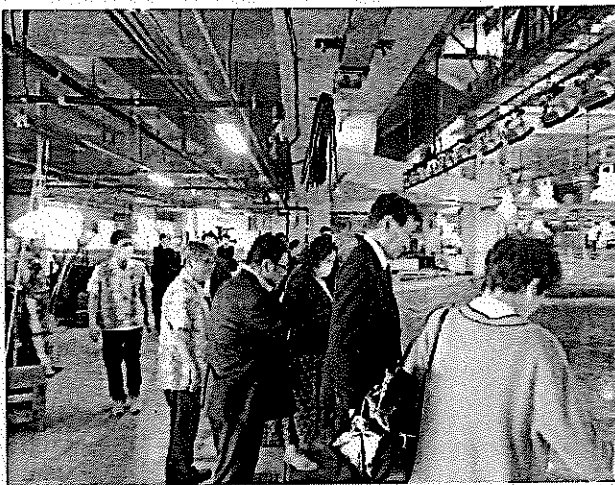
▲バックヤードを視察する議員団



▲バックヤードから見るジンベエザメ



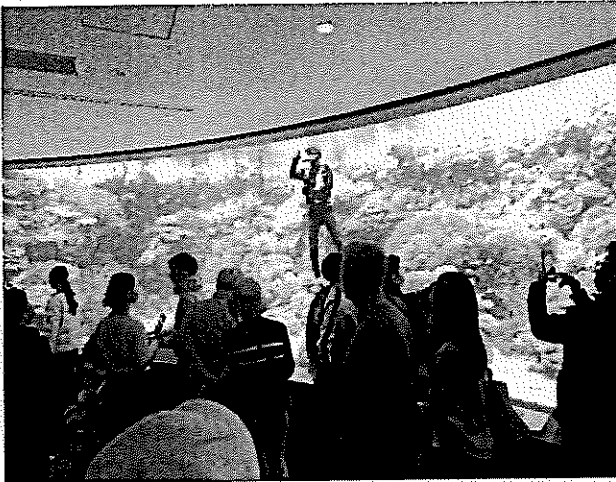
▲飼育の際のえさについて説明を受ける。



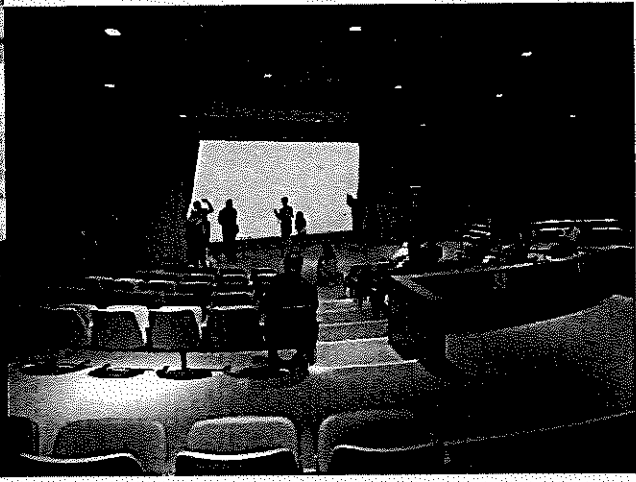
▲バックヤードのマンタを見る議員団



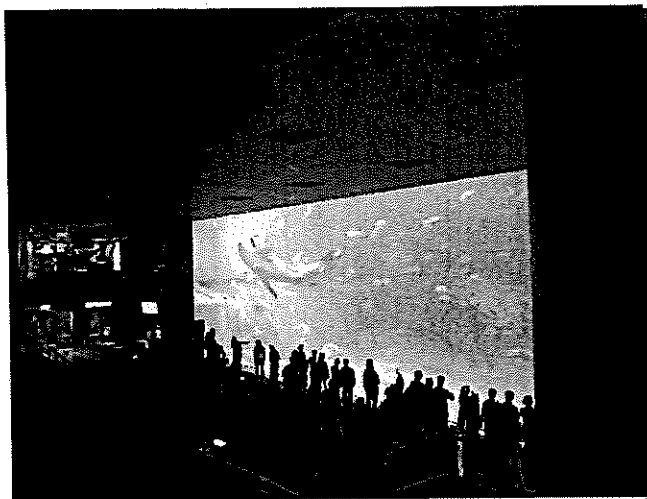
▲観覧者が見る水槽の裏側を視察



▲水槽のダイバーを見る観覧者



▲シアター風につくられた観覧席



▲大水槽を観覧する多くのお客様



▲テーマ別に分かれたブース



▲テーマ別に分かれたブース



▲入口付近での集合写真